

翔陽生の取組みで、高齢者の方々を交通事故から守りたい
～反射材を用いた被服製作を通して、安心・安全なくらしにつなげる教育活動～

熊本県立翔陽高等学校

1 はじめに

増加傾向にある高齢者の交通事故防止を目的とした反射材を用いた被服製作を通して、安心・安全なくらしにつなげるため、地域と連携して取り組んだ教育活動である。

高齢者（大津町在住）の実態を把握し、反射材を用いた被服を製作して报告会・展示を行った。地域へ『夜間の交通事故防止等』について呼びかける活動を通して、さまざまな方々からのアドバイスや発表する機会をいただき、生徒たちは社会に貢献したという手応えを体感することができた。人とのつながりから、様々な教育活動につなげることができた。

2 教育活動

(1) 生徒が意欲的な学習活動をするために

①事前調査（大津町役場・大津警察署へ）

生徒たちに活動（反射材を用いた被服製作）の必要性を感じてもらうため、本県での高齢者の交通事故の多さ、そして大津町の高齢者について情報収集し、数値化したものを授業で示した。

情報提供先は、大津町の高齢者については大津町役場に、交通事故数等については大津警察署に協力していただいた。

②事前学習（県の取組み、企業での取組みを学習して）

県交通安全推進連盟及び反射材を提供していただいた本田技研工業株式会社熊本製作所の担当者から交通事故の実態と反射材の有効活用について講話をしていただいた。直接担当者から県の取組みに生徒たち自身が関わることを体感する機会ともなり、意欲的に取組み始めた。



③大津町の実態把握

事前調査で相談した大津町役場の関係者を通じて、「高齢者学級」の開講日にアンケートを実施していただいた。

アンケートの結果、大津町高齢者の方々は、3割の方が夕方以降に外出されており、交通事故に遭いそうになった人もおられた。また、服装はさまざまだったが、多くの小物等を用いておしゃれに気を使われていることが分かった。

そこで、さまざまな服装、バックなどの小物に、反射材をうまく取り入れた被服製作を実施することとなった。



(2) 実践活動

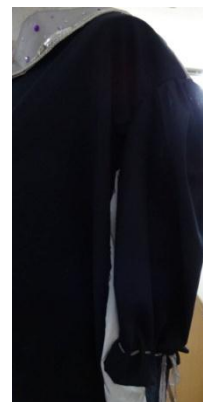
①被服製作開始（デザイン画制作→型紙づくり→裁断→縫製→完成へ）



作品介绍（一部）
・工夫した点

★作品のコンセプト「可愛いおばあちゃん」

- ①反射材とビーズで可愛いく仕上げた『つけ衿』
- ②着やすく袖口を広くし、反射材の糸で絞った袖
- ③反射材と和柄の布で作ったくるみボタン
- ④360°反射材で仕上げ、ギャザーを付けた裾



(3) 報告会・展示・発表

①『高齢者学級』での報告会

作品製作にあたり、アンケート等御協力していただいた『高齢者学級』にて報告会を実施した。励ましの言葉や、もう少しゆっくり作品を見たかったなどの御意見もあった。

②大津町役場・大津警察署での報告会

大津町役場では大津町長様、大津警察署では署長様をはじめ、この取り組みに関係していただいた方々に活動報告した。

報告の際にも、貴重な御意見や、今後を期待した言葉を多くかけていただいた。

③作品展示

報告会を通して、大津町役場・大津警察署での作品展示につながった。

④発表 9月20日（土） 熊本県交通安全県民大会にて

発表では、生徒たちは当日約700名の参加者を前にして、半年間の取り組みを堂々と伝えることができた。生徒たち自身の思いが、聴衆された方々に十分伝わったと思う。

本取り組みについての発表・作品展示を通じて、秋の交通安全運動への取り組みに協力できたこと、出席された小野副知事からも温かい励ましのお言葉をいただき、地域だけでなく、本県の取り組みに貢献できたことを実感できた。



3 さいごに

高齢者の実態を把握した被服製作を通じて、生徒自身が日ごろから学んでいる知識や技能を活かしたことに加え、相手に配慮した心遣いをする、多くの事を学ぶ（気付く）機会となったことなど、貴重な経験となった。さらに、この取り組みを支える地域の方々とのつながりや、作品展示・活動報告などを通じて、生徒たちは、学校での教育活動では得られない体験により、大きく成長することができた。まさに、『環境が人を育てる』ことを体感できた。他にもあるが、このような多くの経験が、生徒自身も新しい自分の再発見につながり、今後さらに意欲的に活動に取り組んでいけるものと期待している。